

まちづくりを学ぶ ～長野県小布施町～

◆はじめに

「まちづくり」と一言で表現するのは簡単でも、それは単に道路を整備したり、大きなビルを建てたからといって実現できるものではなく、「まちづくり」は地方都市の永遠のテーマとも言えるものです。

この度、本県の「まちづくり」の参考にするため、「まちづくり」の成功事例として有名な長野県小布施町を訪れ、その施策やまち並みに直に触れることで感じたことをご紹介します。

◆小布施町のあらまし

長野県の北東に位置する人口約12,000人の町。「栗と北斎と花のまち」という名のとおり、葛飾北斎が晩年4回にわたり訪れた町で、歴史的遺産を活かしたまちづくりで人気を呼んでおり、長野県有数の観光地として認知度が高く、町内には和菓子店が9店舗あり、特に栗菓子に有名。またオープンガーデンを推進しており、町全体が1つのテーマパークのように四季折々の花を愛でながら散策できます。

◆説明レポート

説明をしていただいたのは、まちづくり会社（株）ア・ラ・小布施の勝亦（かつまた）氏。蔵を再利用した会議室で行われました。

まちづくりのきっかけは「北斎館」を建設したこと。ここが北斎の研究機関としても活動することで、観光客が増え始め、町の老舗栗菓子屋さんが集まり、ただ売るだけでなく、滞在型の「おもてなし」を企画し始めました。

その後、町は「町並修景事業」を策定し、まちづくりが本格化します。内と外の連携をモットーに、当時はまちづくりの足かせにならないよう、制度は後追いで制定していったそうです。

ふるさと創生事業でのふるさと交付金では、まちづくりの人材育成を企画。個人レベルだったオープンガーデンを町全体で実施するよう、本場ヨーロッパへ視察団を派遣して、



<会議室：奥は勝亦氏>



<北斎館>



<オープンガーデン>



<町並み風景>

教育と実施を実現しました。これにより個人宅から裏路地、そしてまた道路と行き止まりのない周遊が可能になりました。

小布施町役場の体制としては、1つの事業に対して縦割ではなく横の繋がりを作り、関係する部署すべてから担当を選出しグループ制をとることで、住民からの相談がたらい回しにならないようにしていたり、役場内に大学の研究所を常設し、1校につき300万円の補助を出し、生徒から提出されたまちづくりに関する研究論文を積極的に採用するなど、画期的な取り組みをしています。

また特筆すべきは、長年住民主導でのまちづくりが推進されているため、住民からの相談、要望はすべて具体的であり、その実現へ必要な方法や施策の勉強会、ワークショップまで住民が企画して、町はそのお手伝いをするということが通例となっていることです。



◆あしがき～県内のまちづくりの参考になること～

①住民主導のまちづくりと人づくり

これは、小布施町が生まれ変わるきっかけがそうだったからこそ、現在も続いているという結果かもしれません。しかし、本当のまちづくりとは本来そうあるべきであり、明確なビジョンを示す必要があると思います。

また、町を良くしようと頑張る大人達を見て、子ども達がそれに続く。自分の考えがこの町に反映されることが実感できる。つまり自然に人材育成ともなっている。

行政主導から住民主導へ。これが真のまちづくりへの鍵ではないでしょうか。



②縦割から横の繋がり

役所は縦割。最も世間に知られている事で、最も憂慮すべき事。これが無い小布施町は住民の意見要望が届きやすく、また相談しても無駄という意識が無いように思えます。我々も努力や試行はしていますが、まだまだ出来ることがあるのではと考えさせられました。

今回説明を受け現地を視察することで、理想の「まちづくり」への道は簡単ではないと実感するとともに、羨ましいという気持ちが大きかったです。

住民が笑顔に溢れ、観光客へのおもてなしを追求し、行政と一体となって更により良いまちへと進む。もちろん様々な問題もありますが、我々が追い求めるコミュニティがそこにある。

是非一度行って、見て、聞いて、感じてください。きっと自分の中の何かが変わります。

最後に、同行した若手職員の感想を添えて、報告を終わりにしたいと思います。

(S 技師)

「まちづくり」という分野に携わってまだ2年目ですが、これだけ「歩き回ってみたい」「もう一度行きたい」と思えたまちを初めて見ることができました。

「住民意識が高い」「行政は後方支援」というまちづくりは理想的と感じると共に、実際に民間と行政がどのようなやりとりをしているのか意見交換会に参加したり、住民の方の話を聞いて、それぞれの立場でどのような意識・姿勢でまちづくりに取り組んでいるのかを見てみたかったです。

(M 技師)

小布施町は歩くのがとても楽しいまちでした。町民が美しい庭づくりに取り組んでいるためか、道路や公園に、ごみ一つ落ちていないことに驚かされました。また、特に決まりが無い中で、個人が小布施らしい町並みを意識して建物を建築しており、どこを切り抜いても絵になるまちでした。

町民がまちに誇りを持ち、愛情を持っていることがまち歩きを通して強く伝わってきました。また、町民が何気ない日常を楽しんでいるからこそ、訪れた人も楽しい気持ちになるのだと思いました。

まちづくりは地元の人々の力によって成り立つということを、改めて認識させられました。

古殿町越代地区、西会津町奥川地区の交流(元気ふくしま)

◆古殿町越代地区の地域づくりについて

越代地区では、平成16年度より「サクラ保存会」や「じねんじょ倶楽部」が中心となり懇談会を開催し、現在では「おうぎの会」も加わり、地域づくりを進めてきました。観光シーズンには県内外から多くの観光客が訪れます。毎年行われる「さくらまつり」では地元の人たちの案内やライトアップ等を実施し、“まつり”を盛り上げています。



「さくらまつり」の状況

◆西会津町奥川地区の地域づくりについて

奥川地区は、世帯400件で人口700人、約60%が高齢化した地域であります。平成20年度より「奥川地域づくり会議」として地域活性化に向け、「西会津町奥川を元気にする活動」を行っております。内容としては①遊休施設の活用②景観整備③農林水産物の加工の3分科会に分かれて活動を行っております。



①遊休施設の活用

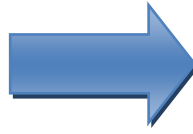
：食堂施設「そば処おく川」



②景観の整備：幕の内視点場からみた飯豊連峰



③農林水産物の加工
：農林水産物加工所「ころんしょ」



地元産の農林産物、山菜に付加価値を付けて販売

◆古殿町越代地区の西会津町奥川地区への現地視察

平成25年7月22日（月）に、越代地区では、西会津町奥川地区の現地視察を行いました。

最初に、現地視察ということで「道の駅にしあいづ・よりっせ」で地域の特産物や、加工品などの説明を受け、「ミネラル野菜、米」という特色のもった直売所で、奥川地区の様々な情報を入手しました。

続いて交流拠点施設「奥川寄宿舍」に場所を移し、意見交換を行いました。意見交換では、奥川地区のそば栽培、加工品、加工場の現状、奥川地区（国道459号沿い）と古殿町について、体験交流の受け入れなど話があがり、最後に「奥川地域づくり会議」の今後についての話を伺いました。

今後ともこのような地域間交流が活発になることを期待したいところです。



「奥川寄宿舍」にて意見交換

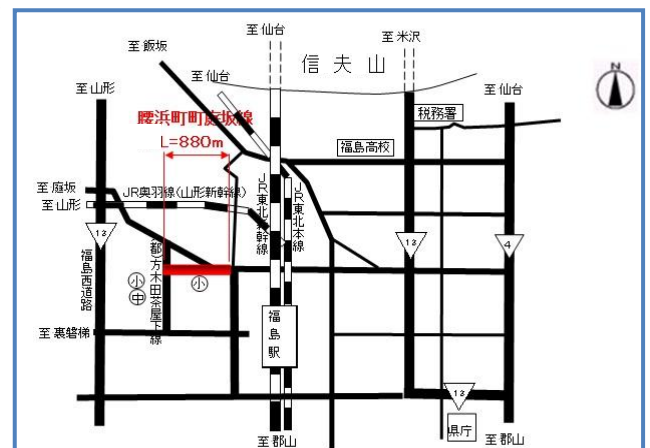
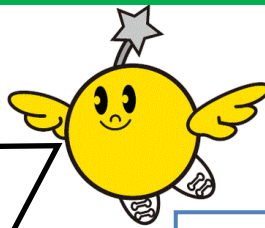


奥川地区のみなさんと記念撮影

～都市計画道路腰浜町町庭坂線（三河北町）が完成しました～

◆腰浜町町庭坂線って？

福島市の中心市街地を東西に、東は国道114号から、西はフルーツラインまでの長い距離の都市計画道路です。福島駅のすぐ北側で線路を跨いでおり、道路沿いには大きなマンションや、保育所、学校などのいろいろな施設があり、人も自転車も車も多い道路です。



◆どんな工事をしたの？



車道は、バスがすれ違うのが大変な狭い道路です。
歩道もありませんでした。

狭い道のとなりに、4車線の新しい道路を作りました。
(バイパス工事)
新しい道には、広い歩道も作り、電線もこれから歩道の下に入ります。



◆開通式が行われました！



平成 25 年 8 月 8 日 (木) に三河北町～野田町五丁目 (三河北町工区) 880m の開通式を行いました。
式には、福島市長をはじめ、多くのお客様にきていただき、新しい道路で、近くの保育園の子どもたちが『鼓笛、歩行パレード』を披露してくれました。

【腰浜町町庭坂線について、詳しくは県北建設事務所の紹介ホームページ】

http://www.cms.pref.fukushima.jp/download/1/douro_kosihama_kaituusiki01.pdf
をご覧ください。

あづま総合運動公園 陸上競技場の愛称が「とうほう・みんなのスタジアム」になりました

◆どうして「とうほう・みんなのスタジアム」なの？

福島県では、ネーミングライツ（施設命名権）の契約を結び、あづま総合運動公園内の陸上競技場に愛称を付けることができる権利を株式会社 東邦銀行に移譲しました。

この契約により、株式会社 東邦銀行が「とうほう・みんなのスタジアム」と名付けました。

愛称が「とうほう・みんなのスタジアム」である期間は平成30年3月31日までとなっています。



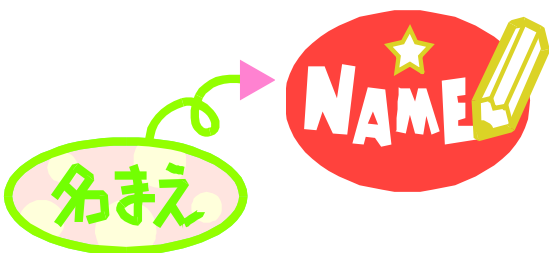
陸上競技場 正門



陸上競技場 正面玄関

ネーミングライツの例

正式名称	愛称	施設所有者
東京スタジアム	味の素スタジアム	(株)東京スタジアム (東京都出資の民間会社)
横浜国際総合競技場	日産スタジアム	横浜市
仙台スタジアム	ユアテックスタジアム仙台	仙台市
県陸上競技場	NDソフトスタジアム山形	山形県
新潟スタジアム	東北電力ビッグスワンスタジアム	新潟県
県営宮城球場	クリネックススタジアム宮城	宮城県



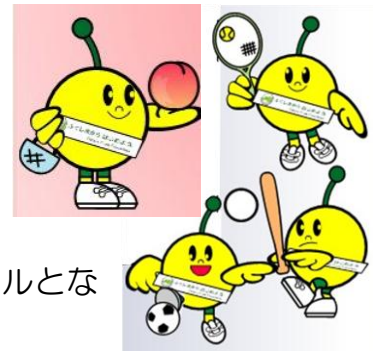
◆ネーミングライツとは

ネーミングライツとは、スポーツ施設や文化施設に、企業名やブランド名などを含んだ愛称を付けることができる権利で、「施設命名権」とも呼ばれます。

ネーミングライツスポンサー（施設命名権者）は、施設に愛称を表示することで、企業の宣伝ができます。また、命名権と引き換えに支払ったお金は公共的な目的で使われるので、企業のイメージアップにもなります。

県は、命名権と引き換えに得たお金で、施設の運営を安定、充実させ、よりよいサービスを提供することができます。

愛称が東日本大震災からの復興に取り組む元気な福島のアピールとなればよいですね。



◆陸上競技場は日本陸上競技選手権大会に向けてうまれ変わります！

残念ながら、現在、陸上競技場は改修工事を行っており、現在は使って頂くことができません。ですが、平成26年4月までには皆様にお披露目できるよう頑張っています。



新たな愛称「とうほう・みんなのスタジアム」と共に、生まれ変わる陸上競技場をぜひご期待ください！



【イベント情報】

- ・9月21日（土）～22日（日） ご当地キャラこども夢フェスタ in 白河
- ・10月6日（日） 会津美里ふれあいウォーク
- ・10月19日（土）～20（日） 会津五街道ウォーキング「会津から元気を！」

メールマガジン登録随時受付中!!!

登録された方には、県内外のまちづくりに関する情報のほか、イベントなどのお役立ち情報をメールにてお知らせいたします。

メールマガジン（無料）の登録をご希望される方は



1. 団体・会社名
2. 氏名
3. メールアドレス

1～3を記入の上、[まちづくり推進課のメールアドレス machizukuri@pref.fukushima.lg.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.lg.jp)まで希望する旨ご連絡下さい。

【発行元】 福島県土木部まちづくり推進課
〒960-8670（住所記載不要です）
TEL 024-521-7511 FAX 024-521-7956
e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp
URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>
（「まちづくりイベント・講習会情報」を掲載しているのでご覧下さい）